［４］串間市小体連（学校数１０校　　児童数８７３人）

Ⅰ　年間事業

期　　日	事業名	主な内容	会　場
５月８日（金）	第１回理事会	前年度事業・会計報告・役員選出・事業計画・予算案審議	福島小学校　中止
６月４日（金）	第２回理事会	水泳指導について　研究の内容確認	福島小学校
７月２日（木）	第３回理事会	水泳指導について　運動会について	福島小学校
８月２８日（金）	第４回理事会	陸上記録会計画　　運動会について	福島小学校
１０月８日（金）	第５回理事会	陸上記録会計画	市総合運動公園陸上競技場
１０月２６日（月）	第６回理事会	陸上記録会前日準備	福島小学校・市総合運動公園陸上競技場
１０月２７日（火）	第５５回串間市小学校陸上記録会		市総合運動公園内陸上競技場
１１月１２日（木）	第７回理事会	陸上記録会反省・研究推進	福島小学校
１２月１０日（木）	第８回理事会	研究推進・研究紀要作成	福島小学校
２月１８日（金）	第９回理事会	事業反省・研究のまとめ	福島小学校

Ⅱ　事業部のあゆみ

１　陸上記録会

（1）大会名　　第５５回　串間市小学校陸上記録会
（2）実施日　　令和２年１０月２７日（火）
（3）会場　　串間市総合運動公園内陸上競技場
（4）出場者　　串間市内各小学校６年生児童　※小規模校は５年生も参加
（5）実施種目
○　トラック競技
・１００ｍ　・８００ｍ（女子）　・１０００ｍ（男子）　・５０ｍハードル　・４００ｍリレー
○　フィールド競技
・走り高跳び　・走り幅跳び　・ソフトボール投げ
（6）競技方法
○　タイムレースとする
○　出場は、１００ｍとリレーを除き、１人２種目とする。１００ｍは全員参加とする。
フィールド競技は、１人１種目のみ参加できる。
○　競技は、原則として学年別、男女別とする。
○　その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
（7）日程　　開会式　　８：４５　　競技開始　　９：００
競技終了　１１：４５　　閉会式　　１１：５０
（8）表彰
○　上位６名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
（9）反省
・　学校規模の縮小等もあり次年度はさらに役員の確保が厳しい。競技の精選等の検討が必要である。
・　スタートを「位置について　用意」→「On Your Marks　Set」にしてはどうか。(日本陸連の正式ルール)
・　１００ｍ走を「一般」と「選抜」に分けたらどうか。（タイム測定の回数を減らすことによる時間短縮）
・　熱中症対策が必要。（観覧場所の検討、給水所の設置等）
・　陸上記録会を他市では実施していないところもある。熱中症対策、行事の精選、職員の負担軽減のためにも、今後も実施していくべきか検討が必要である。

【新型コロナウイルス感染症への対策】
・ 開始時刻を早めたり、プログラムを改めたりして半日開催とした。
・ 観覧席入場に検温所を設けた。
・ 「児童一人につき保護者一名まで」と入場制限を設けた。
・ 保護者は常時、児童は待機中マスク着用とした。

２　その他

水泳の授業については、水の事故等から命を守る力を身に付けさせるという目的で各学校１０時間程度行った。新型コロナウイルス感染症対策として以下のことを行った。

○　串間市小学校水泳記録会の中止
○　ビート板やプールの手すり、ドアノブ、蛇口等の消毒及び更衣室の常時換気
○　学年ではなく、学級単位によるプール使用

Ⅲ　研究部のあゆみ

１　研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～

２　主題設定の理由

串間市小体連では、器械運動における「主体的・対話的で深い学びのある授業」はどうあれば良いかを授業の工夫・改善の視点で進めており、今年度が研究２年目である。研究を深めていく中で、目指す児童の姿を以下の３つに絞った。

①　課題を見つけ、解決に向けて主体的に運動に取り組む児童
②　人対人、人対教材などとの対話を通して、課題解決につなげることができる児童
③　①と②の過程を通して、試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するにはどうすればよいかを考える児童

昨年度は、この３つの視点をもとにマット運動での研究授業会を実施した。成果としては、学習課題の設定の工夫やワークシートの工夫をすることで、児童の主体的な学びに繋がった。また、タブレットを使うことで自分の動きを振り返ることができるようになり、自己との対話もより促されるようになった。課題としては、単元レベルでの授業改善をどのように行うべきか考え実践していく必要があることが挙げられた。

今年度はさらに、跳び箱運動における「主体的・対話的で深い学びのある授業」を副題として授業改善に視点を当てて研究を進めることにした。

３　研究の目標

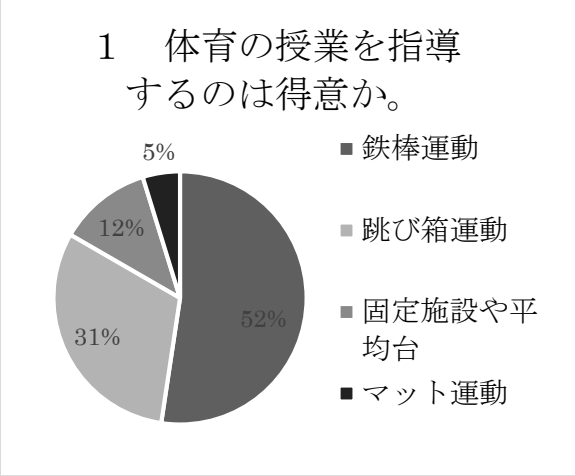
運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わる児童を育成する指導の在り方を究明する。

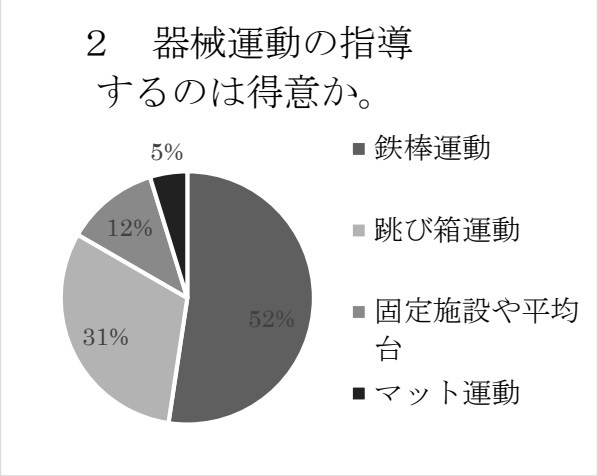
４　研究の仮説

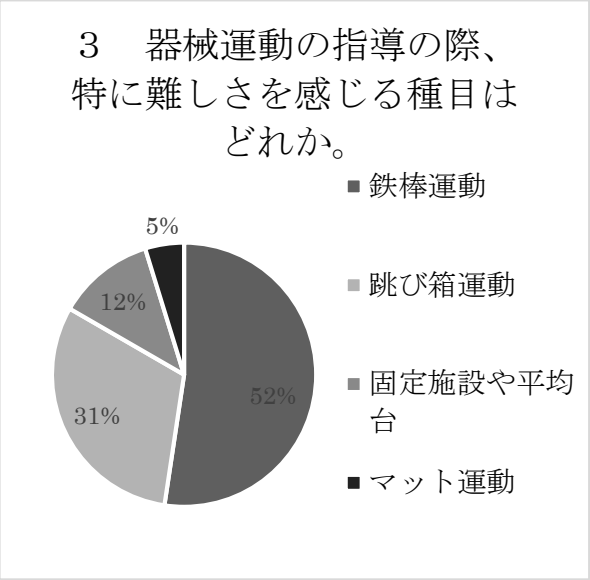
体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から、児童が自己の課題と向き合い、教師が技のポイントを意識できるような工夫を行えば、児童が自己の課題を解決する楽しさを実感するようになり、運動にすすんで関わるようになるであろう。

5　研究の実際

（1）串間市の小学校に勤務する教職員へのアンケートの集計







4　器械運動の指導の際、特に難しいと感じるのは何か。（自由記述）

○　安全面について
- 指導の際に気をつけることは何か。

○　技の指導法
- できるためのポイントは何か。
- 模範として見せらない。

○　場の設定について
- 全員が運動に意欲的になれる場作りはどうすればよいか。

○　評価の方法について
- 思考判断の評価が難しい。
- どこをゴールとすべきか。

（２）準備運動１０の啓発

昨年度の研究に引き続き、器械運動の授業において、児童の基礎的運動能力の向上を促すことができるような工夫はないかを考えた。そこで、器械運動の技の習得につながる力をつける「準備運動１０」各校の体育主任を通して、市内全体への啓発と実践を図った。その際、惰性的にならないように教師自身も児童の運動の様子を見取ったり、補助をしたり、より技能を高められるような声かけをしたりするようにした。

体育館に掲示している準備運動１０

実際の様子

（３）　実践報告書の作成・啓発

今年度は、各校で取り組んだ跳び箱運動の実践を集約した報告書を作成し、各校へ配布し器械運動の指導の資料として活用する予定である。

６　研究の成果と課題

（１）成果

○　準備運動１０を啓発・実践化を図ることにより、支持感覚や回転感覚といった基礎的な感覚作りにつながった。また、教師が注意深く児童の体の動きを見取ることで、技のポイントを意識し、授業改善にも繋がった。

（２）課題

●　技のポイントを示したものがあると、体育指導の経験の少ない先生への手助けになるので作成したい。

●　鉄棒運動の指導に対して苦手意識がある先生も多いので、小体連が率先して研究を深められると良い。